



仲間をつなぐ思いやりの心

～温もりに満ちた学校へ～

校長室だより 6月号

2025. 6. 26

<不撓不屈の芦中生>

- ・思いやりと温かな心
- ・言葉で伝え心で聴く
- ・自ら主体的に行動

本気で取り組むからこそ 学べることもある

県体予選となる、加賀地区大会が終わりました。各部活動にとって、とても大きな意味をもつ大会です。特に3年生にとっては、あらためて言うまでもなく、進退をかけた大一番となる大会です。私は、全ての



競技を応援することはできませんでしたが、部員全員が心を一にし、目標に向

けて精一杯に取り組む姿は本当に素敵で、敵味方関係なく、見る人を感動させる輝きを放っていました。

勝負ですので、結果はそれぞれ。勝者もいれば敗者もいる。その大会で最後まで勝ちきるのは1チームのみ。その1チーム以外

はみんな負けを味わうことになる。それが大会です。今回は予選を兼ねた大



会なので、負けても次につながる場合があります。だから、なおさらのこと、勝ち負けだけで評価をすることはできません。大切なのは、この大会に向けて、精一杯の準備をしてきたかということ。大会本番で、自分のできることを出し切れたかということ。そして、この勝負から何を学んだかということです。この大会に自分が、自分た

ちが本気で取り組んだのならば、勝ちには勝ちなりの、負けには負けなりの学びが必ずあるものです。その大会に賭けていたものが大きいほど、その学びは大きな学びになります。だから、勝ったから良くて、負けたからダメだということではないのです。

かけがえのない学びを これからに生かそう

3年生には、次の大会を目標にして頑張る人と、2年生に後を託し、新たな目標に向かう人がいます。

2年生には、3年生から学べる時間が延びた人



と、先輩から伝統を受け継いだ人がいます。1年生は、先輩たちの本気を見て、中学生として真剣に打ち込む姿の格好良さを感じたと思います。いろいろな立場



の人が混在するのが今の時期です。だからこそ、それぞれがお互

いの立場を理解し、思いやり、励まし合うことができる、そんな芦城中学校であってほしいと思います。この学びを部活動だけでなく、これからの学校生活の様々な場面に生かして、温かな思いやりの心をさらにつないでいってください。